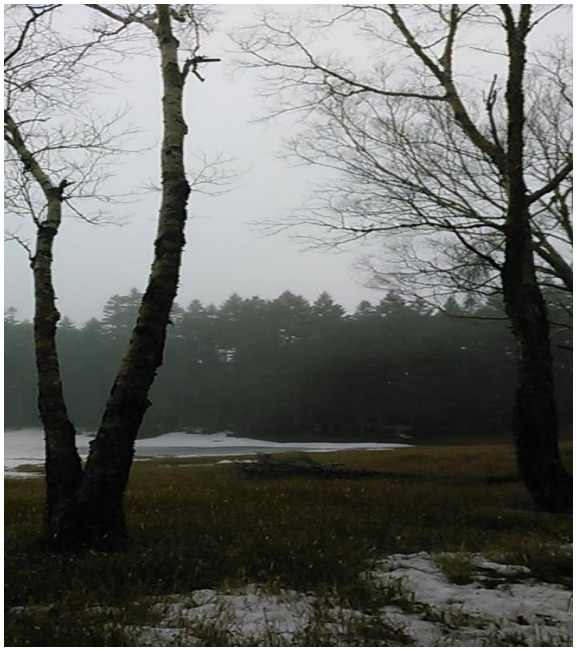
【個 人】　　提　出　　2019年5月4日

山　行　報　告　書

山行報告者:　加　藤

山　域・山　名：	池山吊尾根～城峰ピストン(2372m)（山梨県南アルプス市）
入山日又は期間：	2019年4月29日(月)・前泊～5月1日(水)　（1泊2日　）
プラン担当者　正: 今 田	
参加者	L：　今 田　　記：加 藤 他1名 男2名 、女1名、計3名
天　候	29日：雨 30日：小雨 1日：雨一時晴れのち雨 池山御池小屋周辺 →

4月29日（月）	20:00 上尾駅前集合→中央高速甲府昭和 IC→夜叉神峠駐車場 23:00 着→仮眠
4月30日（火）	4:00 起床、各自で朝食・準備→5:30 夜叉神峠駐車場出発～鷲住山を越える～野呂川つり橋を渡り～歩き沢橋着、吊尾根登山口より入山～13:00 池山御池小屋着、小屋泊 （翌日の北岳山頂ピストンは中止、一日繰り上げて下山を決定）
5月1日（水）	4:00 起床、各自で朝食→5:00 小屋出発、城峰へ→6:10 頃　城峰着、往路を下る→7:05　小屋着、荷造り 7:30 小屋を出発→10:10 沢歩きバス停着休憩 10:25 出発→11:00 鷲住山つり橋通過→13:30 鷲住山登山口林道に出る→14:40　夜叉神峠駐車場着　（歩行時間8h） 20:00 頃 上尾駅着、解散

装備と食糧	**共同装備**：補助ロープ、スコップ（今田）、30日・1日夕食（加藤） **車提供者**：今田
	個人装備：テント・シュラフ・マット一式、ヘッドランプ、雨具、防寒衣、ピッケル、アイゼン、手袋、テルモス、新聞紙、ごみ袋、目出し帽、ゴーグル、ストック、コッフェル、カラトリー、地図、コンパス、ナイフ、ラジオ、テントシューズ、セルフビレイセット、ツェルト、ブラシ、水筒、ワカン、バーナー、燃料3日分、ヘルメット **個 人 食**：5食分、行動食、非常食 **次ページへ続く**

感　想＆要注意事項	吊尾根から北岳を目指す今回の山行は、結果からすると、天気は前泊を含めて雨続き、加えて池山小屋での沢水の補給が積雪によりできず、小屋周辺の雪で融雪による調達となったがその結果燃料不足が発覚、やむなく翌日予定していた北岳山頂ピストンを取りやめて、１日繰り上げての下山となった。 初日、前日から降りやまない雨の中、駐車場を出発して林道を延々と歩いた。雨で土がぐずぐずに脆くなった鷲住山を越え、野呂川のつり橋を渡り、さらにトンネル続きの林道を歩いてようやく吊尾根の入り口に立った。そこからの急登は、足場の悪さと傾斜のきつさに 20 キロのザックが加味された「修行」の道のりそのもので、他に登山者の姿もなく展望もない、しかしどこまでも深く碧く広がる原始の森の中に私達だけがいた。 やがて森を抜けて、突然視界が開けて池が現れ、小屋に到着した。各自テントを背負っていたが、他に登山者もなし、小屋泊に決まる。問題は水で、沢へ降りるには雪が深すぎ、小屋前の池は不純物が多すぎて、結局小屋周辺の雪を溶かして水を作る。燃料がみるみる減り、翌日の下山が決定した。 夕食は、凍らせて背負いあげた豚肉と豆もやしの、白ワイン蒸し・ポン酢がけ。〆は山盛りのかつお節とキノコと余り肉の和風スープスパゲティ。避難小屋に私達だけの贅沢な夕餉である。何とか翌日分の水も作り、５時にはもう全員がふかふかのシュラフに入ってウトウトしていた。雨だれの音だけが小屋を包み込み、静かな静かな夜が降りてきた。 翌朝は４時には起きだして各自朝食をとり、余計な荷物は小屋に置いて、ワカンで深雪の急斜面を城峰目指して登って行った。あえぎあえぎ城峰の尾根に乗り上げると、左にひときわ高く黒々と光る北岳、右に雪と氷の甲斐駒ヶ岳が同時に迫ってきた。私たちが乗っているこの尾根があの北岳につながっていると思うと、このまま踵を返して下山するのがいかにも辛かったが、でもそれこそが山が私たちに教えてくれている大事なおきてなのだと思いなおした。それでも、やっぱり北岳へ続く道の先を直視することはできなかった。「また来い、待ってるぞ」と背中に言われた気がした。 小屋に戻り、荷造りを済ませてすぐに下山を開始する。雨脚が少し弱まったようだ。 改めて、小屋の周りの奇跡のような風景に見入った。 森の奥深くに広がる池の周囲は、霧雨に煙って深い濃い息を吐いていて、まるで巨きな瞳孔がゆっくり開いてこちらを見つめてくるように、ここだけが空気が凝縮している。生も死もすべてそのまなざしの中にあって、この広大な森全体を覆っていた。急峻な尾根を気を張り詰めながら降りていくと、曇天を裂いて開けた青空から光の矢が差し込み、透明な金属の管を打ち鳴らすような声で、どこかで鳥が鋭く鳴いた。深く切れ落ちた谷間から、雲が巨大なかま首をもたげて立ち昇ってくる。この森の一瞬一瞬の表情が、荘厳な一枚の絵だった。 再び林道に降り立ち、鷲住山の止（とど）めの長い急登を越え、いくつものトンネルを抜けた。朝、小屋を発ってから７時間近く経っていた。霧雨は、夜叉神の駐車場に着く頃には土砂降りとなり、気温が上昇してひどく蒸し暑かった。 高速手前でコンビニに寄り、高速で渋滞にのまれ、ぼんやりと車窓から外を眺めながら、苔に沈んだ森や修道僧のように冬木が立ち並ぶ池のほとりを想った。心に彫り込んだあの風景は、山と交わした大切な約束のようなもので、また鷲住山の険しい山道を越えて会いに行きたい。メンバー全員、それは同じ気持ちでいた。 たくさんの教訓と学びと感動みなぎる山行でした。～ありがとうございました。～